

南会津町男女共同参画計画
策定に係るアンケート結果
(令和2年度調査)

南 会 津 町

調査概要

1. 調査の目的

すべての町民が性別にとらわれることなく、個性と能力が発揮できる「男女共同参画社会」の実現を目指し、「南会津町男女共同参画計画」を策定するに当たり、町民の男女共同に関する課題や認識を調査するため。

2. 調査実施概要

- (1) 調査地域 南会津町全域
- (2) 調査対象 令和3年1月1日現在、住民基本台帳に登録のある18歳以上の男女各500人を無作為抽出
- (3) 標本数 1,000(人)
- (4) 調査方法 郵送による配布・回収
- (5) 調査期間 令和3年2月3日(水)～2月28日(日)
- (6) 回収結果 回収数479通(回収率47.9%)

3. 調査結果

No.	設問区分	問	頁番号
1	回答者の構成	問 1～問 6	p. 3～p. 4
2	男女平等の意識について	問 7～問 9	p. 5～p. 9
3	女性活躍の推進について	問 10～問 13	P. 10～p. 11
4	職業・就労について	問 14～問 18	p. 12～p. 14
5	子どもの教育について	問 19～問 20	p. 15
6	介護について	問 21～問 22	p. 16
7	人権について	問 23～問 28	p. 17～p. 20
8	男女共同参画社会について	問 29～問 30	p. 21～p. 27

4. 調査結果の表示方法

- 回答者の比率は百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。
そのため個々の比率の合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の質問では比率の合計が100%を超える。

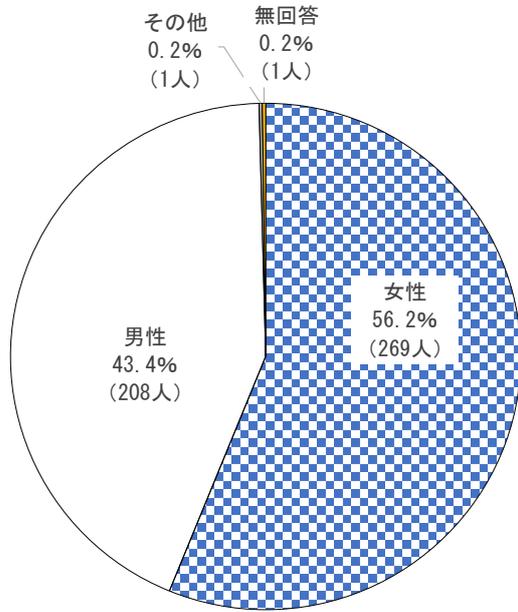
- 図表中の「n」は回答者総数（該当者だけが回答する質問の場合は該当者数）のことで、100%が何人に相当するかを示す比率算出の基礎である。

- 本調査と調査項目が同一または類似している質問について、福島県が実施した調査結果との比較を行った。
文中及び図表中では、比較する調査結果を以下のように表記した。

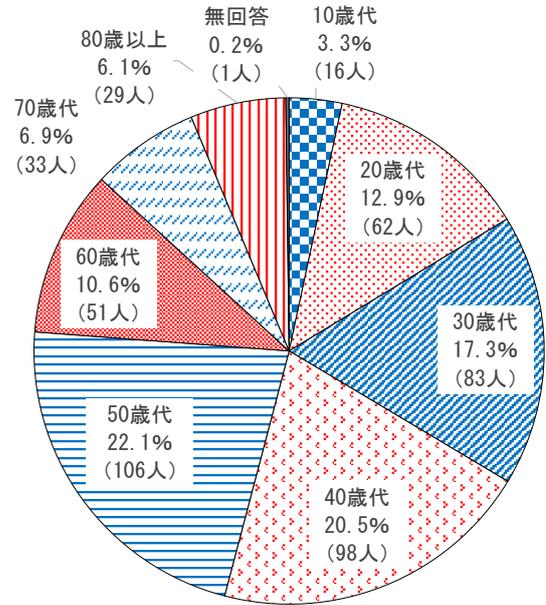
- 県調査** … 「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査報告書」
福島県 令和2年3月実施
(調査対象：福島県内に居住する20歳以上の男女個人)

1. 回答者の構成

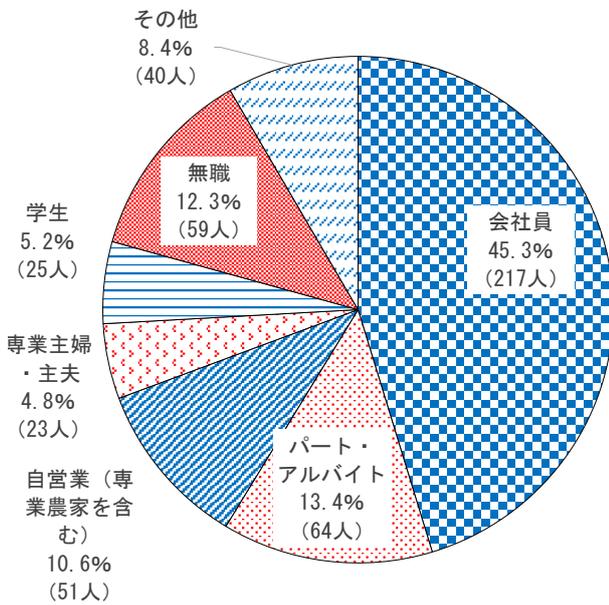
問1 あなたの性別を教えてください。



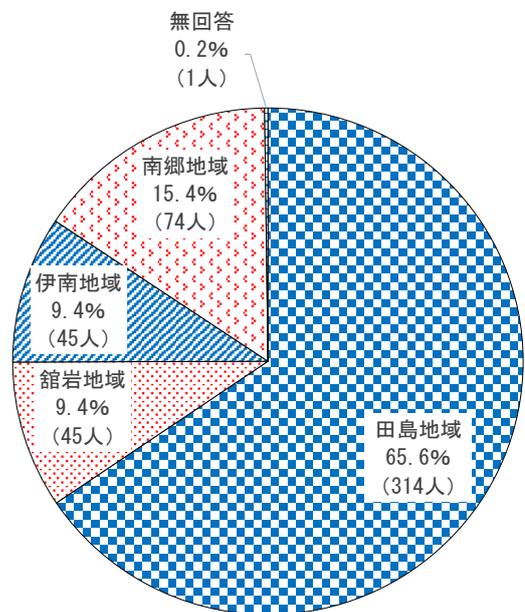
問2 あなたの年代を教えてください。



問3 あなたのお仕事について教えてください。

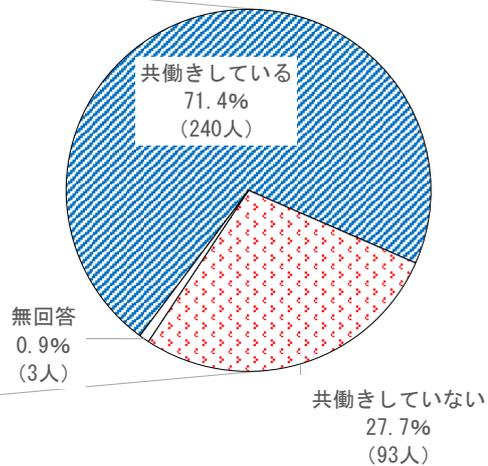
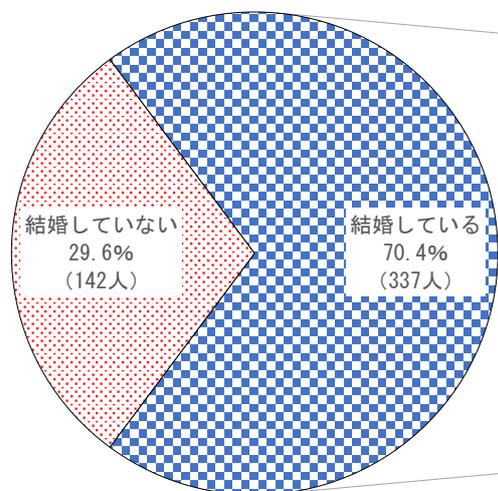


問4 あなたのお住まいを教えてください。



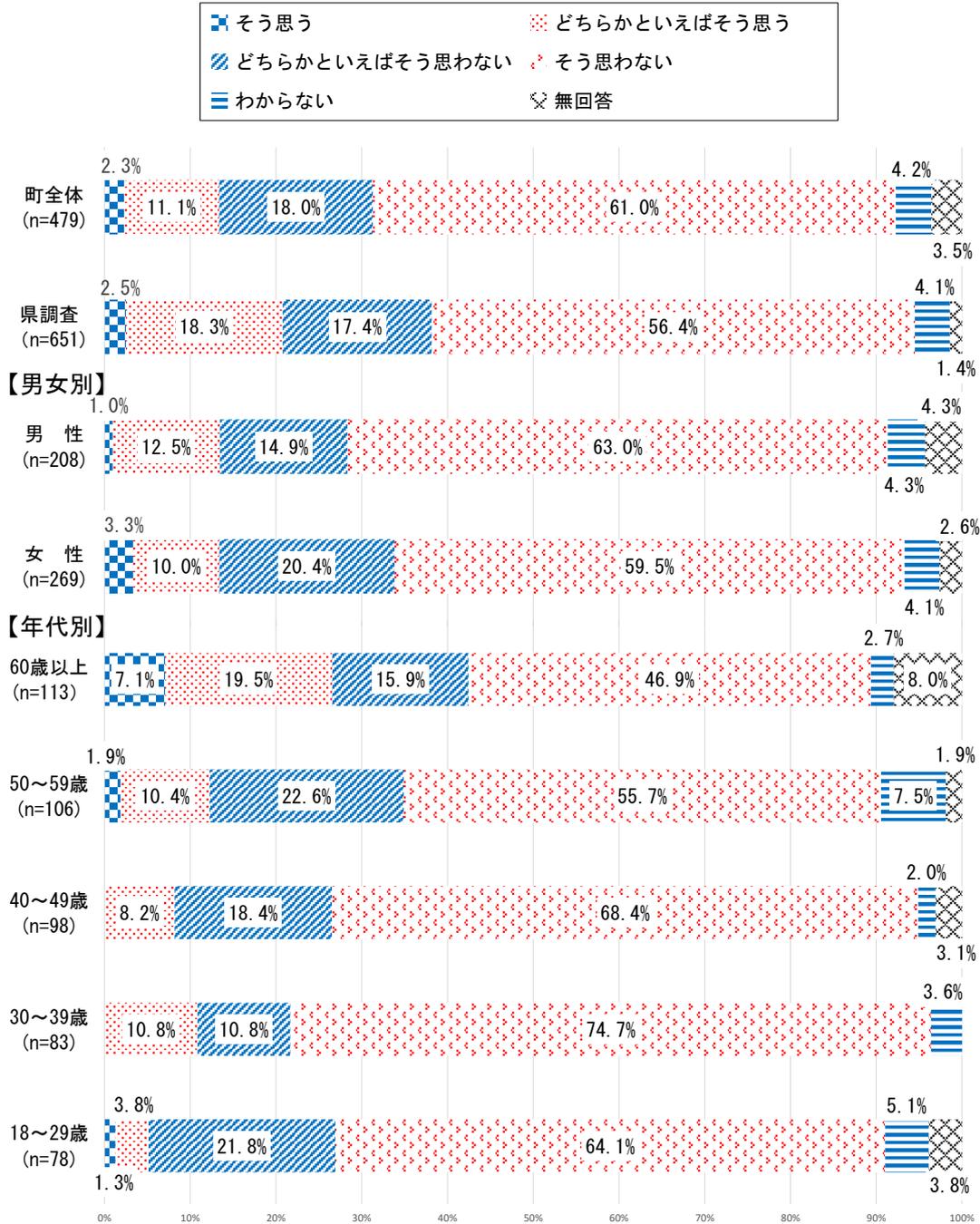
問5 あなたは現在、結婚されていますか？

問6 問5で「結婚している」と答えた方にお聞きします。
あなたは共働きですか？



2. 男女平等の意識について

問7 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。



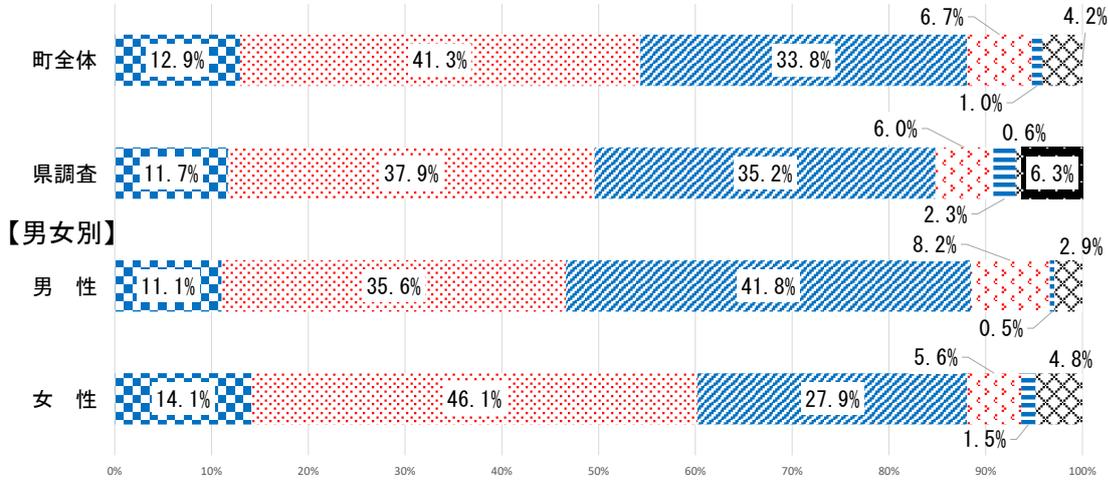
○県調査と比較すると、町全体の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が低い。
○年代別では、年代が上がるほど「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高い傾向にある。

問8 あなたは、次の分野で男女の地位が平等だと思いますか？

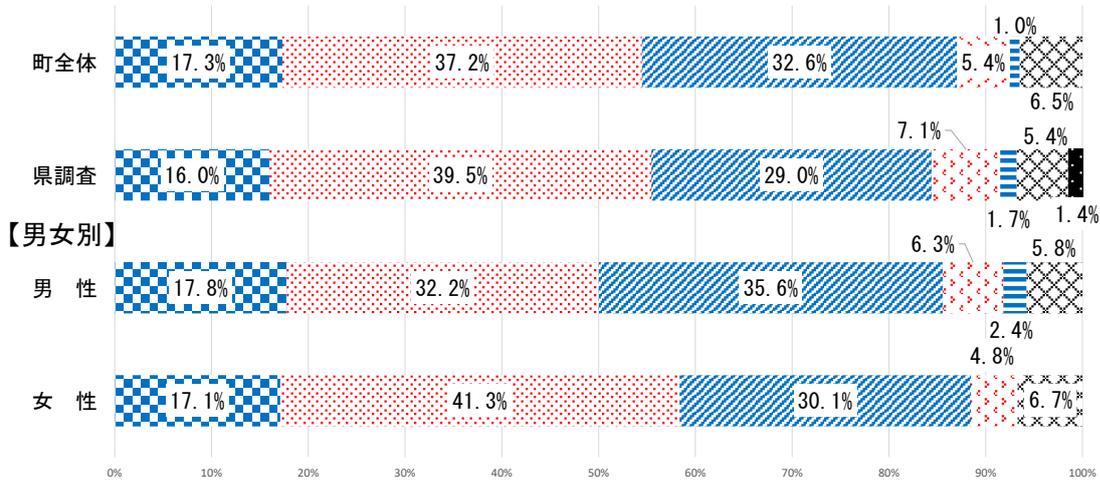
県調査 (n=651)
町全体 (n=479)
男性 (n=208)
女性 (n=269)

■ 男性が優遇
▨ 平等
▤ 女性が優遇
■ わからない (県調査のみ)
● どちらかといえば男性が優遇
● どちらかといえば女性が優遇
× 無回答

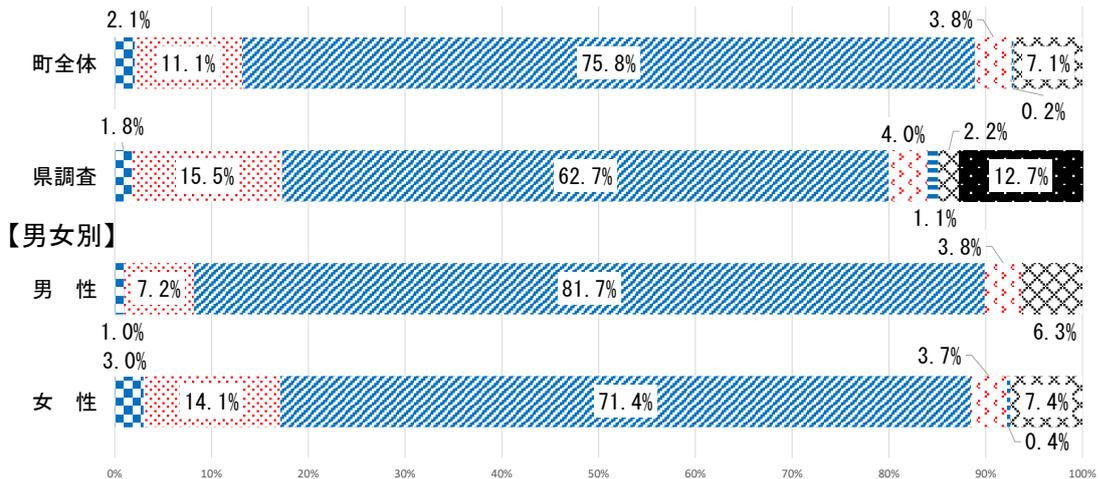
①家庭生活において



②職場において



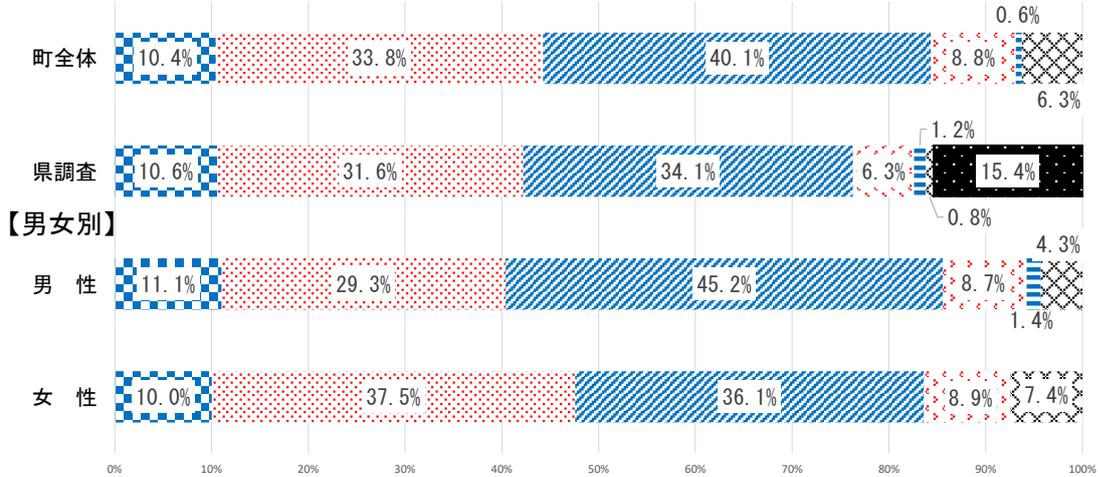
③学校教育において



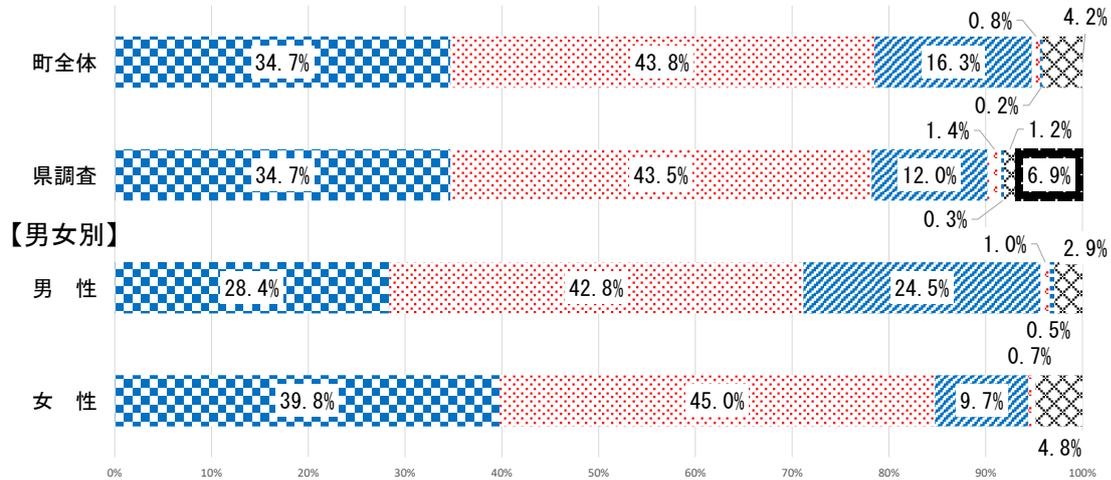
県調査 (n=651)
町全体 (n=479)
男性 (n=208)
女性 (n=269)

■ 男性が優遇
▨ 平等
▤ 女性が優遇
■ わからない (県調査のみ)
● どちらかといえば男性が優遇
○ どちらかといえば女性が優遇
⊗ 無回答

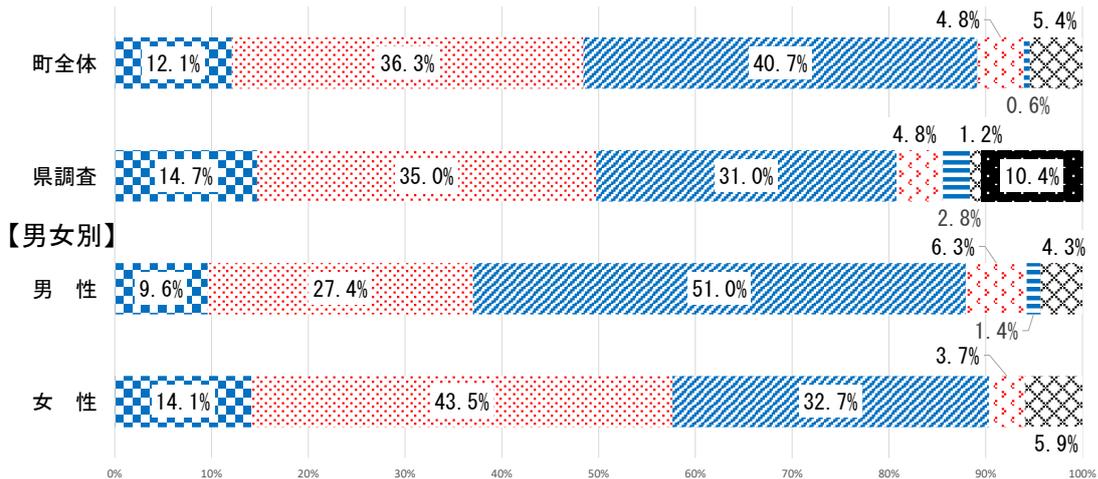
④地域活動において

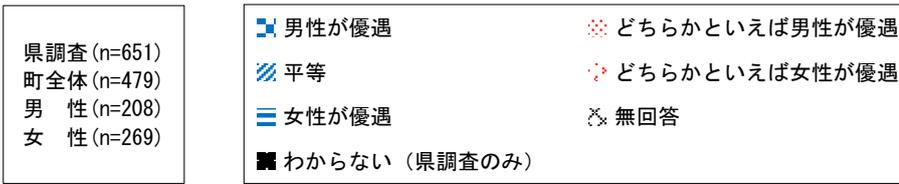


⑤政治において

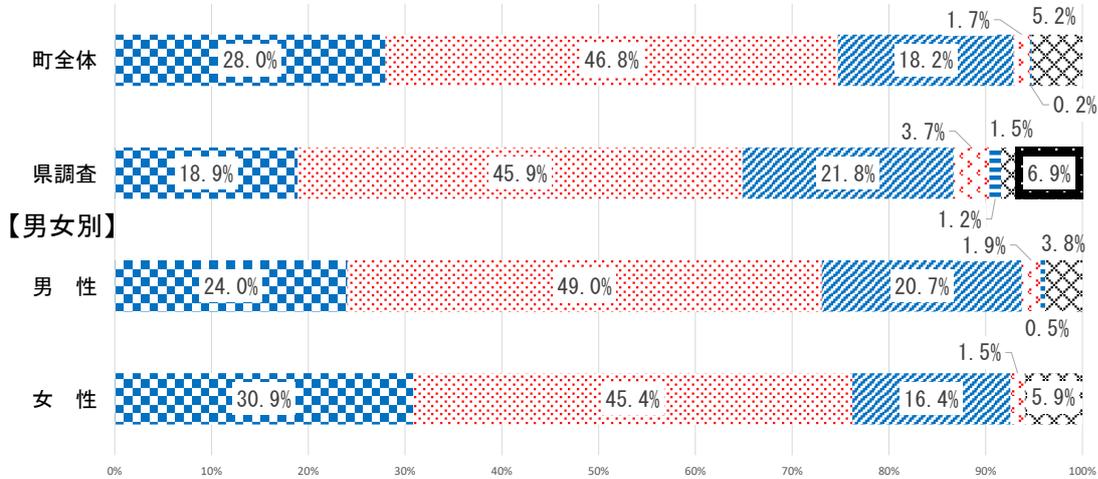


⑥法律や制度において

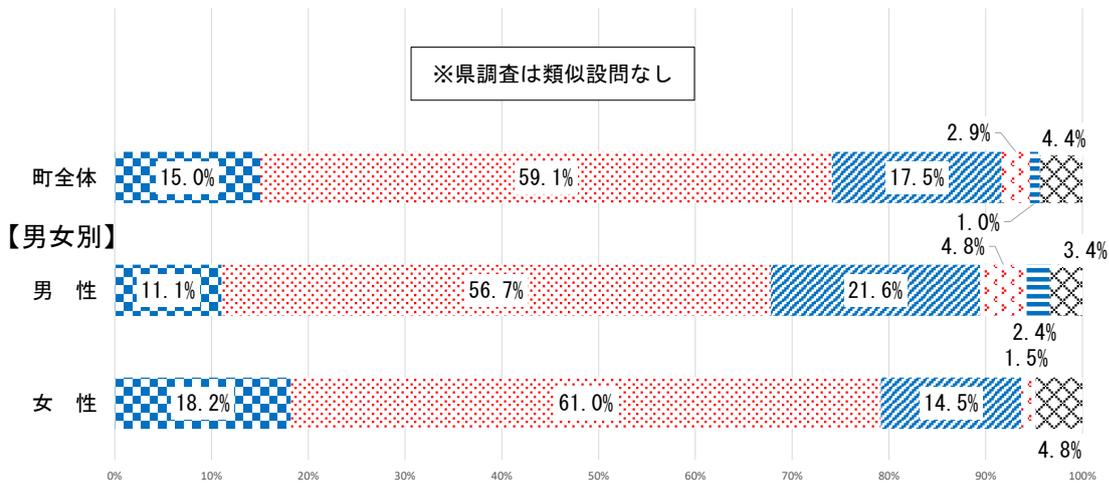




⑦慣習、しきたりにおいて



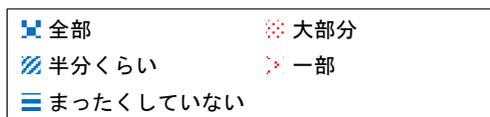
⑧社会全体において



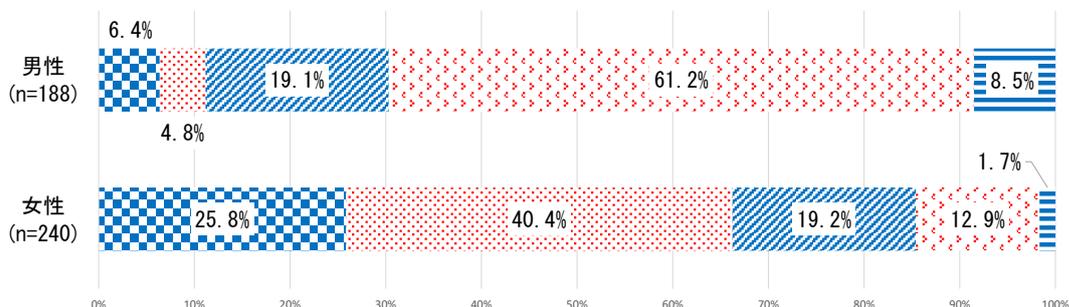
- 各項目とも、男性よりも女性の方が「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」の割合が高い。
- 「学校教育」においては、「平等」と回答した割合が町全体で75.8%と高く、県調査を13.1ポイント上回る。
- 「家庭生活」と「慣習、しきたり」においては、町全体の「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」の割合が県調査よりも高い。

問9 あなたは、次の項目を家庭においてどのくらい負担していますか？

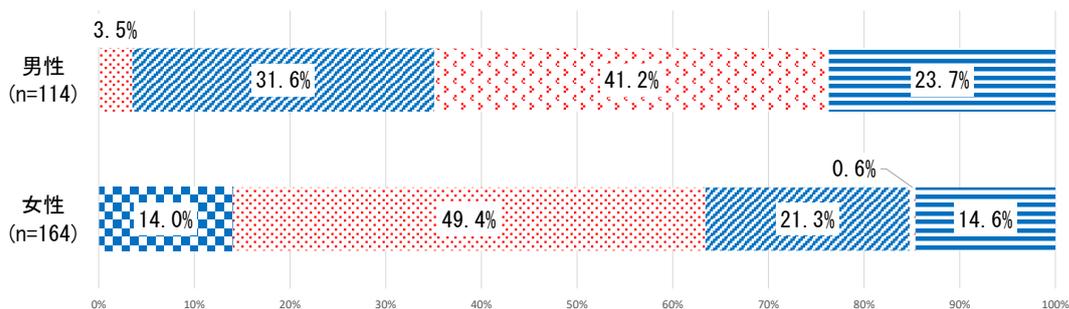
※該当者のみ回答を求める設問のため、無回答は集計から除外。



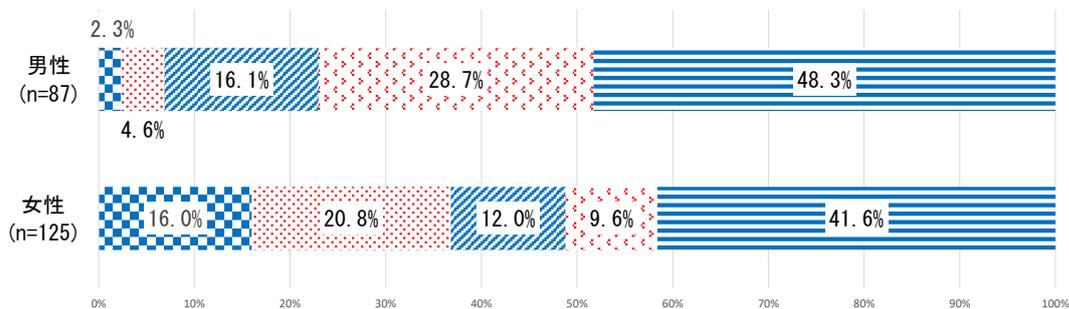
①家事 (全体 n=428)



②育児 (全体 n=278)



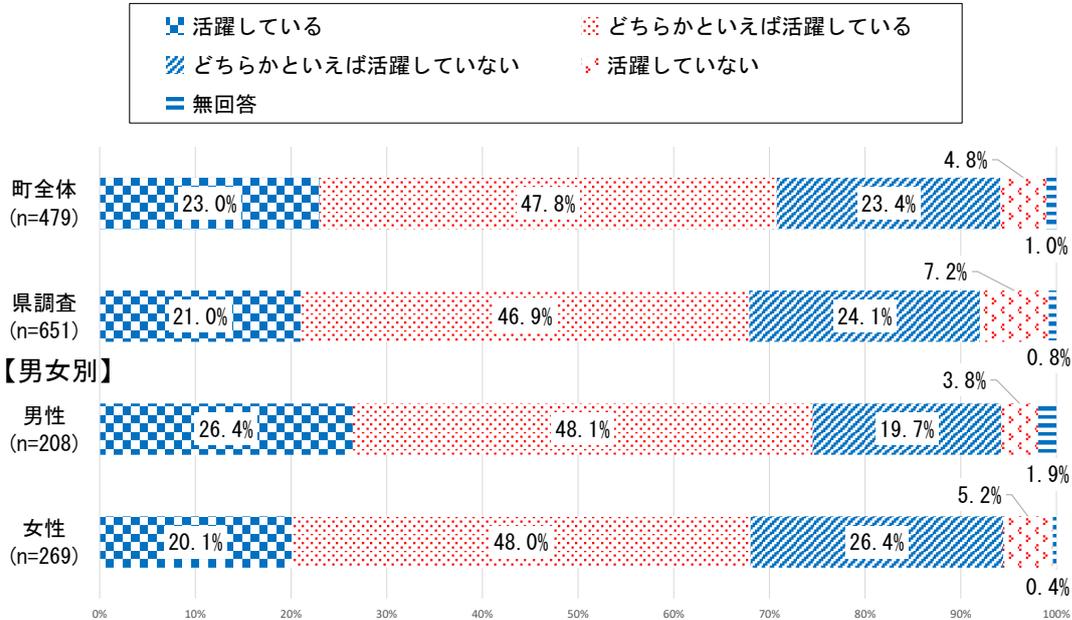
③介護 (全体 n=212)



○「家事」「育児」においては、女性の「全部」「大部分」の割合が6割を超えている。一方で男性は「半分くらい」「一部」の割合が「家事」は8割、「育児」は7割程度。

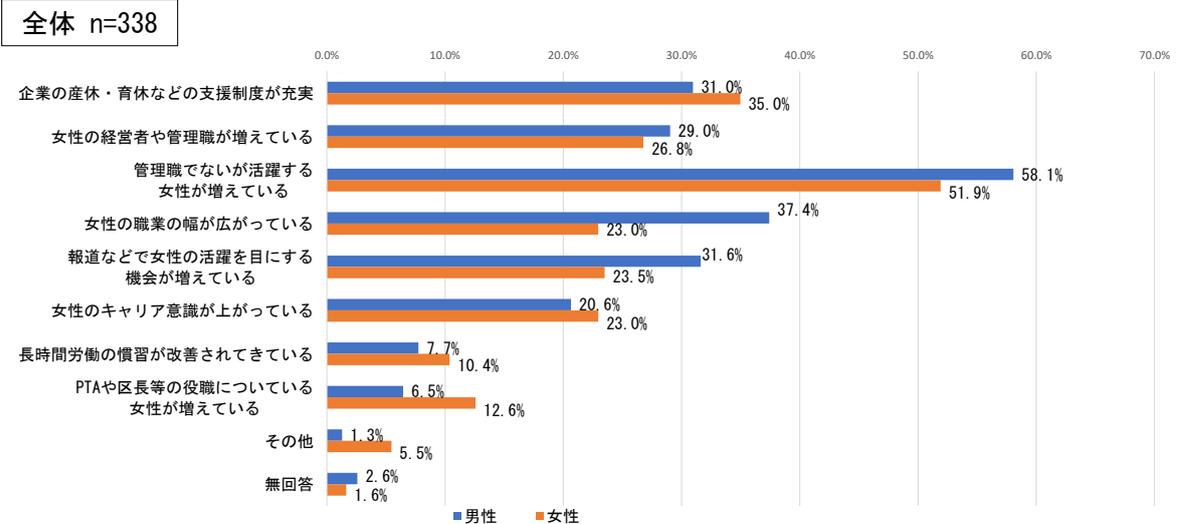
3. 女性活躍の推進について

問10 あなた自身やあなたの身近にいる女性は、仕事や地域活動で活躍していると思いますか？



○町全体と県調査に大きな差はみられない。
○男女別では、「活躍している」「どちらかといえば活躍している」の割合が男性の方が女性よりも6.4ポイント高い。

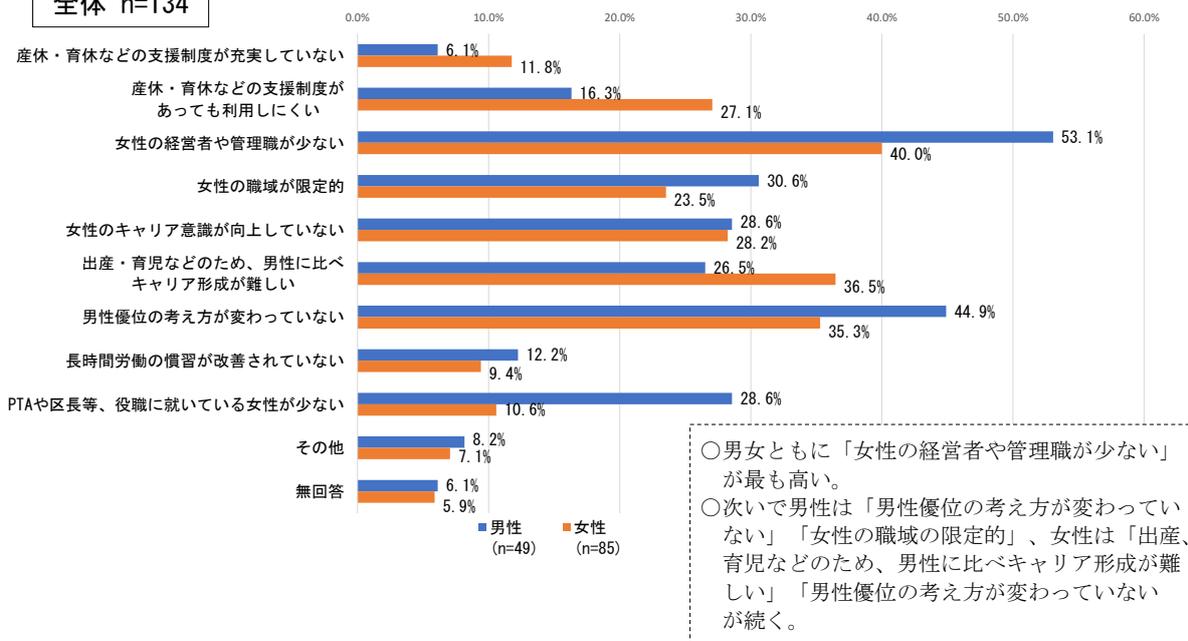
問11 問10で「活躍している」または「どちらかといえば活躍している」と回答した方にお聞きます。活躍していると思う理由は何ですか？（3つまで○）



○男女ともに「管理職でないが、活躍する女性が増えている」が最も高い。
○次いで男性は、「女性の職業の幅が広がっている」「報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている」、女性は「企業の産休・育休などの支援制度が充実」「女性の経営者や管理職が増えている」が続く。

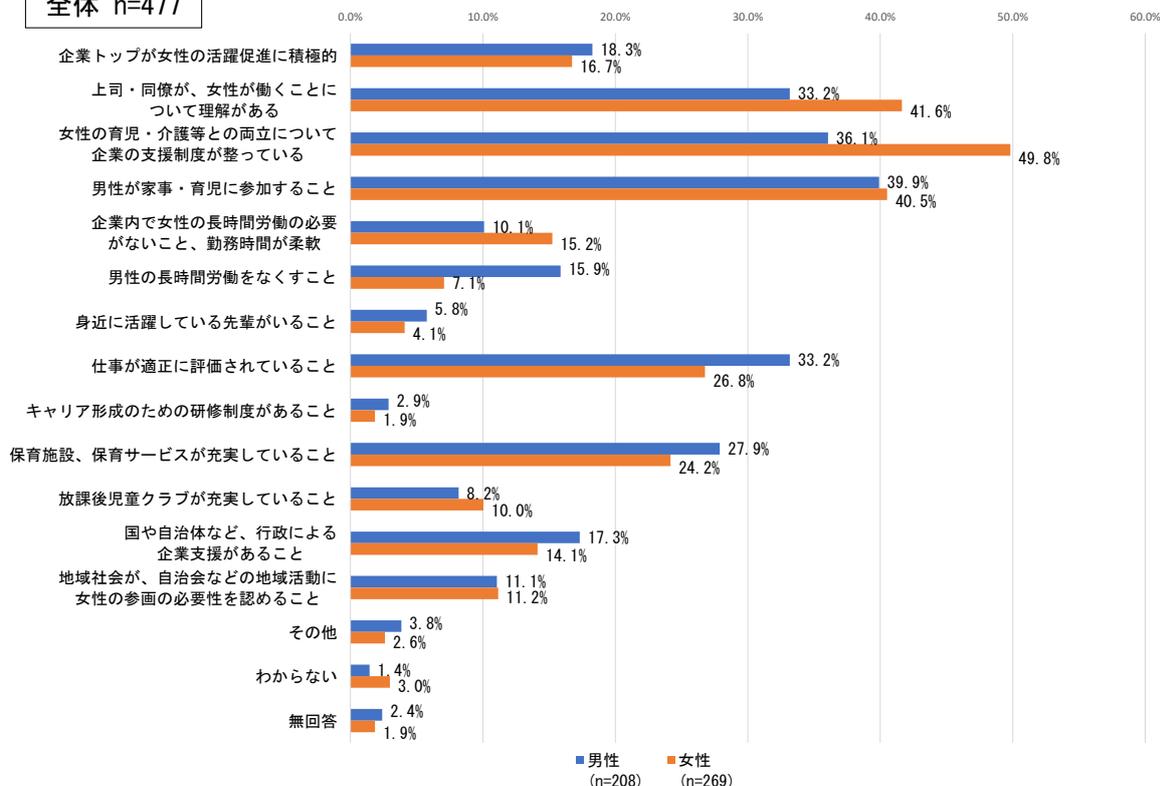
問12 問10で「活躍していない」または「どちらかといえば活躍していない」と回答した方にお聞きします。活躍していないと感じる理由は何ですか？（3つまで○）

全体 n=134



問13 女性がさらに活躍するには何が必要だと思いますか？（3つまで○）

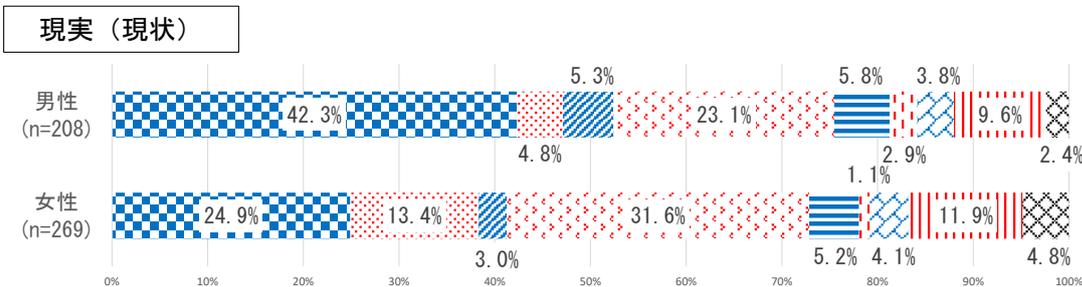
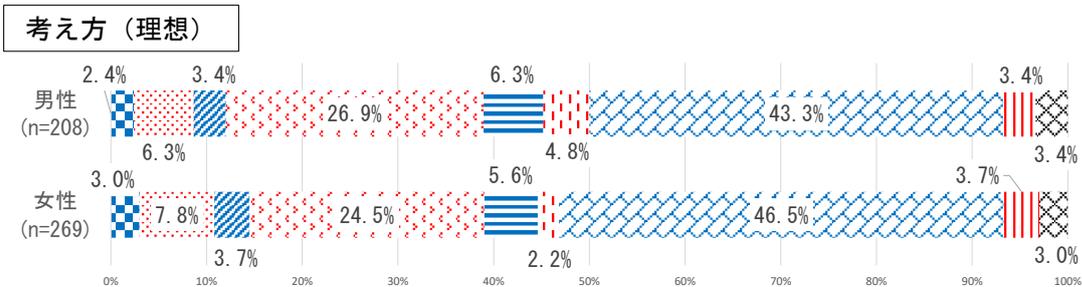
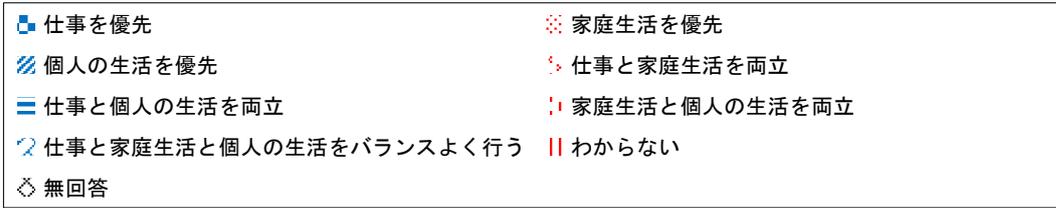
全体 n=477



○男性は「男性が家事・育児に参加すること」が最も高く、次いで「女性の育児・介護等との両立について企業の支援制度が整っている」「上司・同僚が、女性が働くことに理解がある」「仕事が適正に評価されていること」が続く。
○女性は「女性の育児・介護等との両立について企業の支援制度が整っている」が最も高く、次いで「上司・同僚が、女性が働くことに理解がある」「男性が家事・育児に参加すること」が続く。

4. 職業・就労について

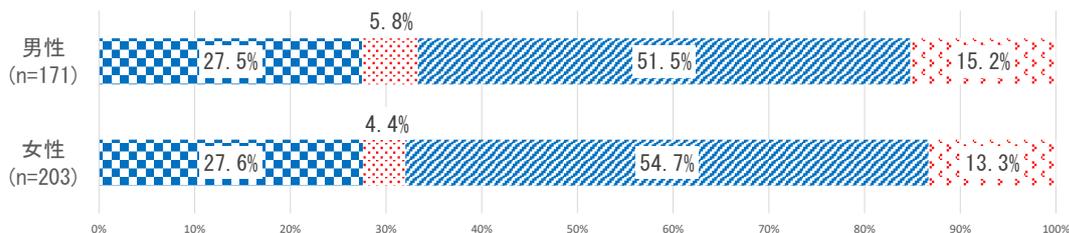
問14 仕事と生活について、あなたの考え方（理想）と現実（現状）にもっとも近いものを教えてください。



- 「考え方（理想）」は、男女ともに「仕事と家庭生活と個人の生活をバランスよく行う」が最も高く4割を超える。
- 「現実（現状）」は、男性は「仕事を優先」、女性は「仕事と家庭生活を両立」が最も高い。「仕事と家庭生活と個人の生活をバランスよく行う」は、男女ともに5%未満と低い。

問15 今の職場で仕事の内容や待遇面において、男女の地位の平等感についてどう思いますか？

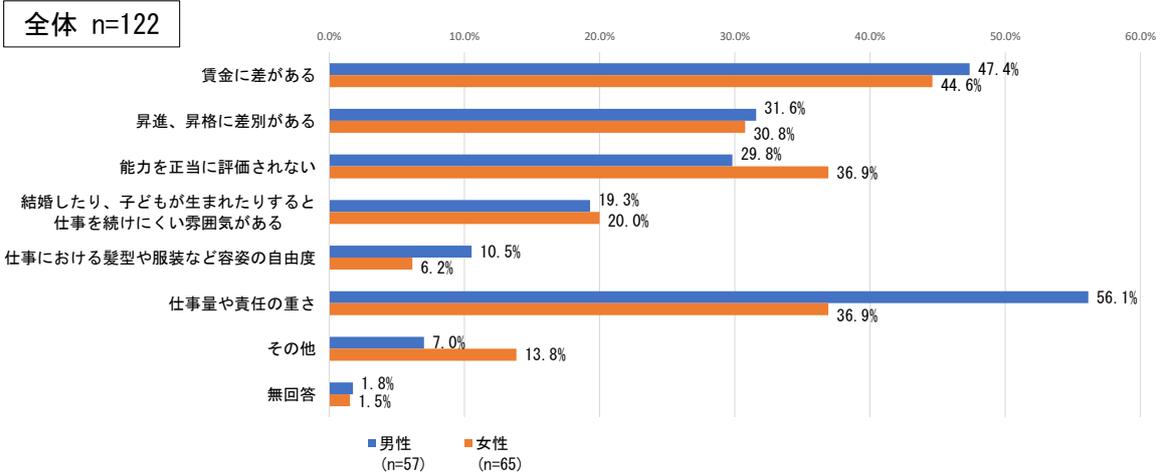
※現在働いている方のみ回答を求めため、無回答は集計から除外。



- 男女に大きな差は見られず、男女ともに「そのようなことはないと思う」の割合が半数を超え最も高く、次いで「男性が優遇されていると思う」が続く。

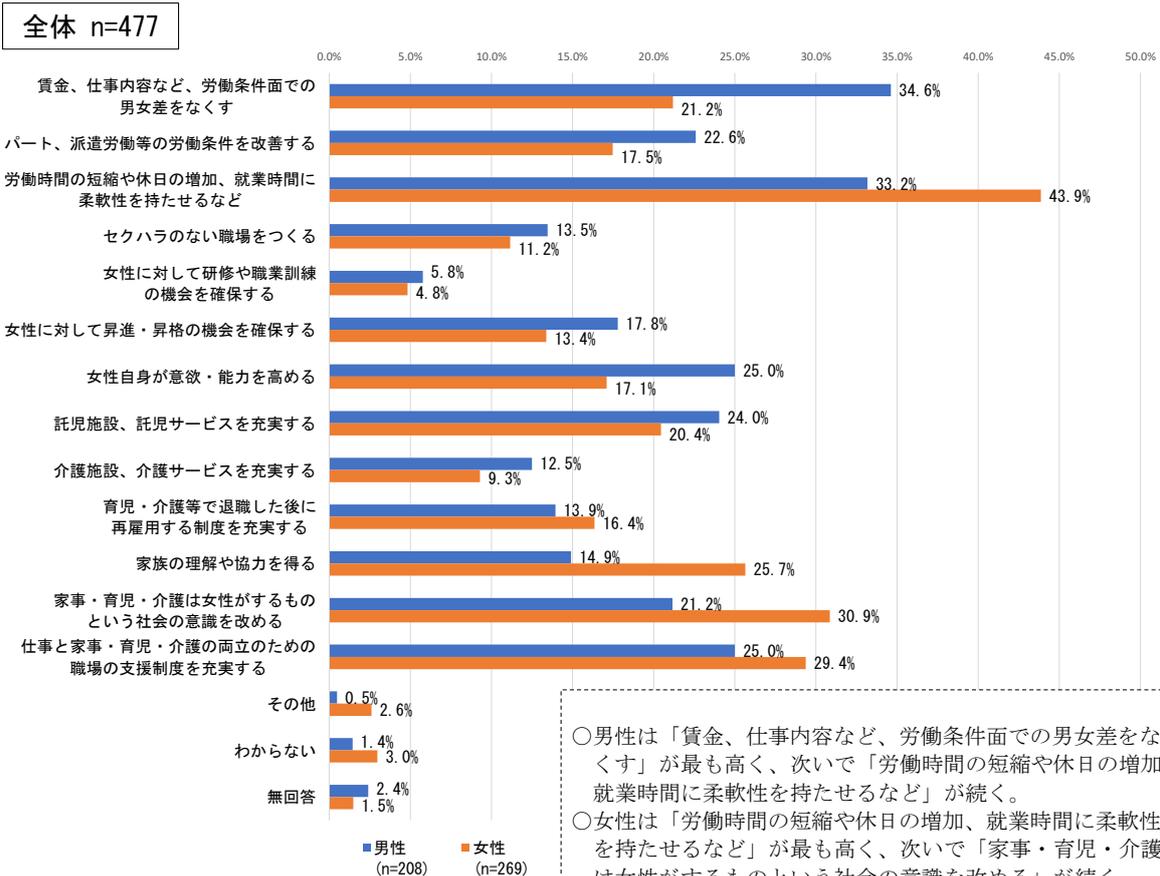
問16 問15で「男性が優遇されていると思う」または「女性が優遇されていると思う」と答えた方にお聞きします。

それは、具体的にどのようなことですか？（あてはまるものすべてに○）



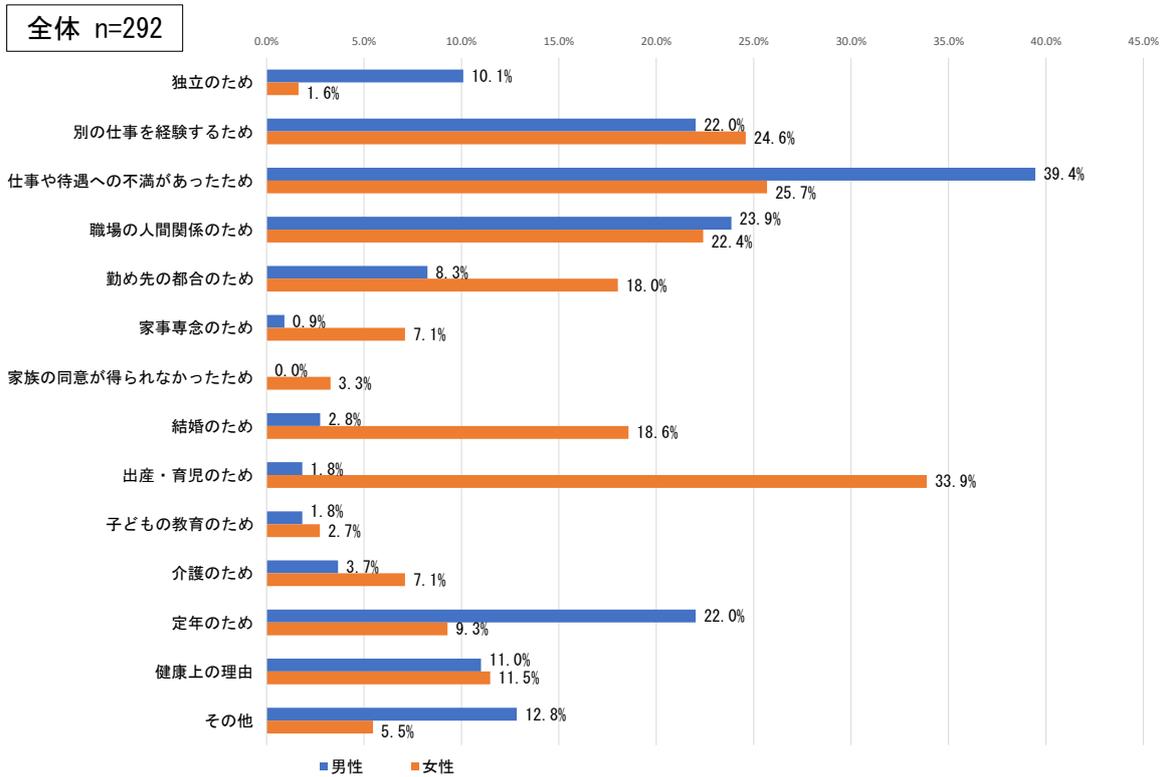
○男性は「仕事量や責任の重さ」が最も高く、次いで「賃金に差がある」「昇進、昇格に差別がある」が続く。
 ○女性は「賃金に差がある」が最も高く、次いで「能力を正当に評価されない」「仕事量や責任の重さ」が続いている。

問17 あなたは、女性が働き続けたり、再就職したりするために必要なことは何だと思えますか？（3つまで○）



○男性は「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」が最も高く、次いで「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど」が続く。
 ○女性は「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど」が最も高く、次いで「家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める」が続く。

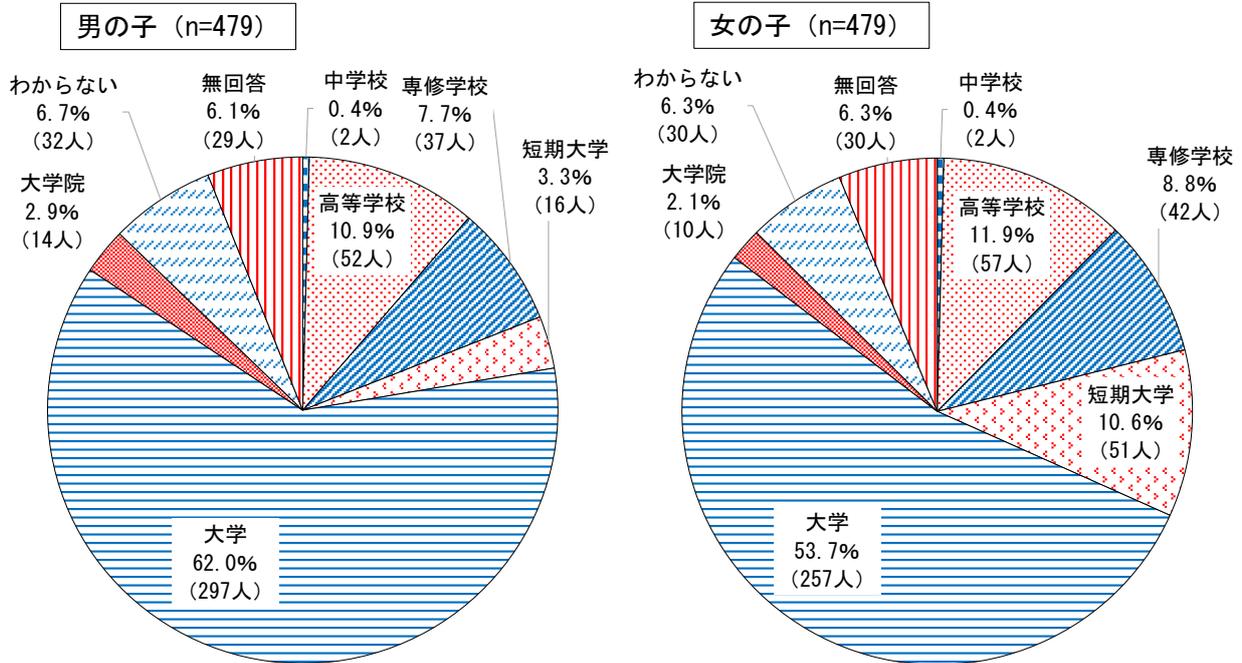
問 1 8 これまでに仕事を退職した経験がある方にだけお聞きします。
 あなたが仕事を辞めた理由は何ですか？（あてはまるものすべてに○）



○男性は「仕事や待遇への不満があったため」が最も高く、次いで「職場の人間関係のため」「別の仕事を体験するため」が続く。
 ○女性は「出産・育児のため」が最も高く、次いで「仕事や待遇への不満があったため」「別の仕事を体験するため」が続いている。

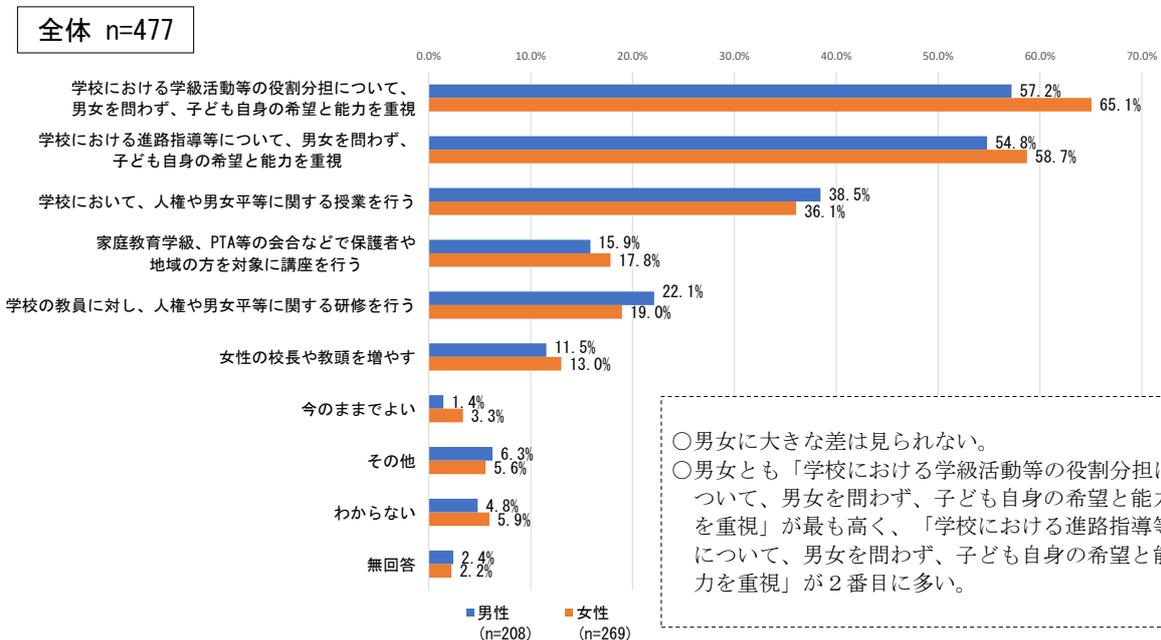
5. 子どもの教育について

問19 あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか？
 お子さんがいらっしゃる方、お子さんが既に学校を終えられた方も、ご自身に女の子と男の子がいると仮定してお答えください。



- どちらも「専修学校」「短期大学」「大学」「大学院」を合わせた割合は7割を超える。
- 男の子の方が女の子よりも「大学」の割合が8.3ポイント高い。
- 女の子の方が男の子よりも「短期大学」の割合が7.3ポイント高い。

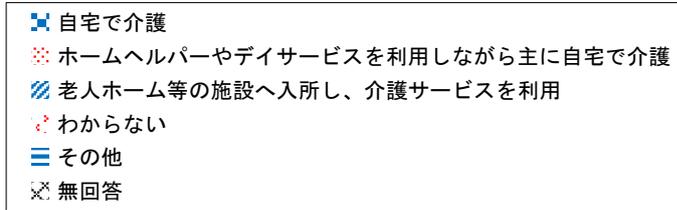
問20 次の世代を担う子どもたちに対して、人権や男女平等の意識を醸成するためには重要だと思うものはどれですか？（3つまで○）



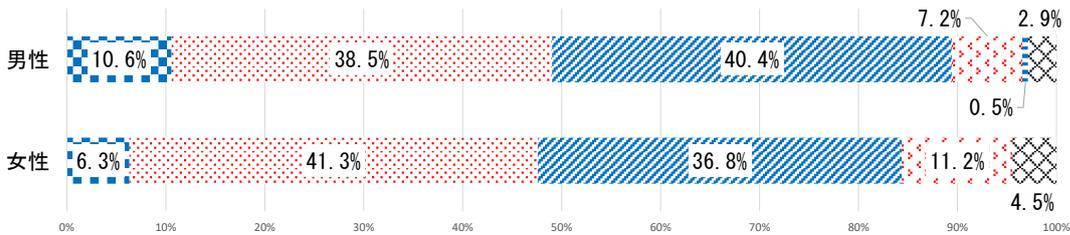
- 男女に大きな差は見られない。
- 男女とも「学校における学級活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視」が最も高く、「学校における進路指導等について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視」が2番目に多い。

6. 介護について

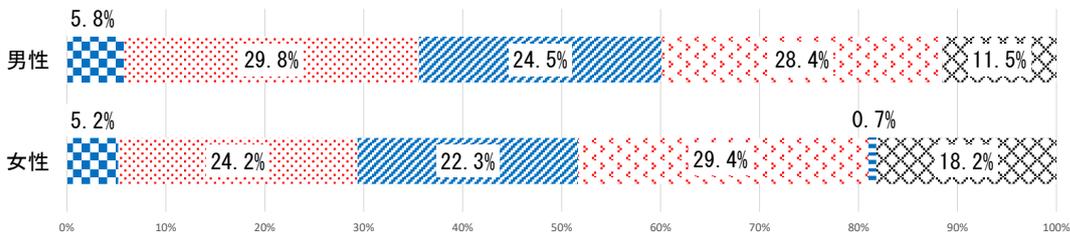
問 2 1 あなたは、自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、家族が介護を要する状態となった場合、どのようにしたいとお考えですか？



考え方（理想）

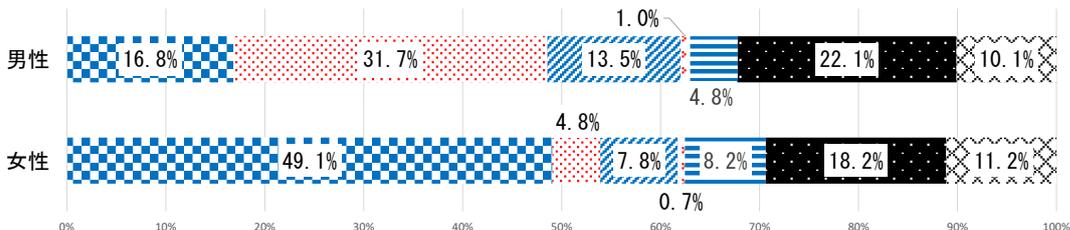


現実（現状）



○男女に大きな差は見られず、「考え方（理想）」と「現実（現状）」どちらも「ホームヘルパーやデイサービスを利用しながら主に自宅で介護」「老人ホーム等の施設に入所し、介護サービスを利用」の割合が高い。

問 2 2 自宅で介護する（している）場合、家族の中では主に誰が介護しますか（していますか）？



○女性の「主に自分」が約5割で、男性に比べて約3倍。
○男性の「主に自分の配偶者」「主にその他の家族（女性）」を合わせると45.2%を占める。

7. 人権について

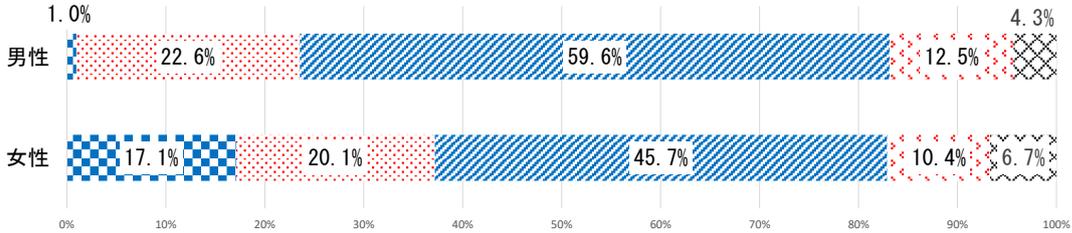
問23 あなたは、次のような人権侵害を受けたり、身近で見聞きしたことはありますか？

男性(n=208)
女性(n=269)

- 自分が受けた
- 身近で見聞きした
- マスコミ等で聞いたことがある
- 知らない
- 無回答

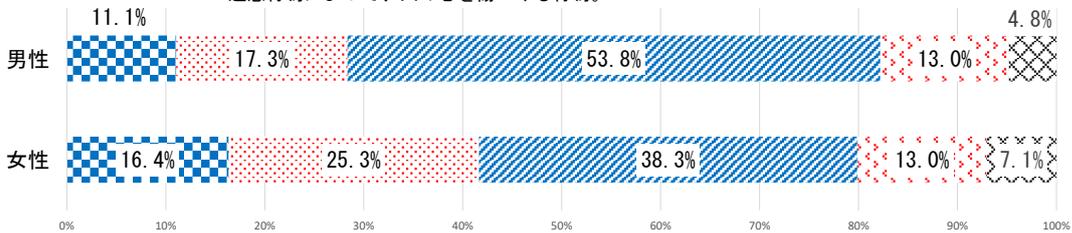
1 セクハラ

※セクシュアル・ハラスメント…相手が望まない性的な意味合いを持つ言動のこと



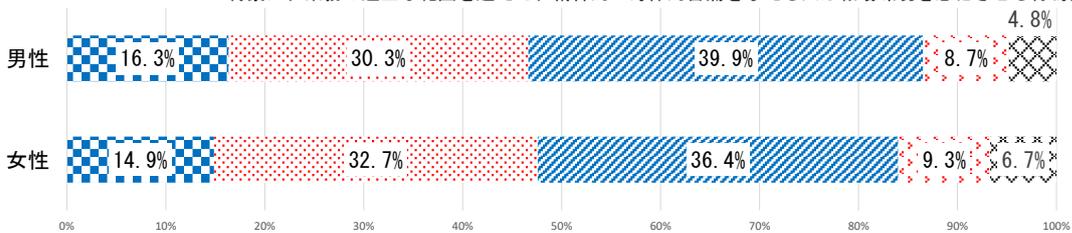
2 モラハラ

※モラル・ハラスメント…無視などの態度や人格を傷つけるような言葉など、精神的な嫌がらせ・迷惑行為によって、人の心を傷つける行為。



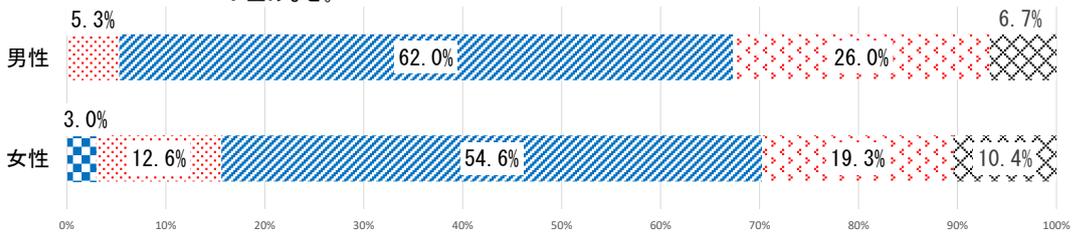
3 パワハラ

※パワー・ハラスメント…同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などを職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為。



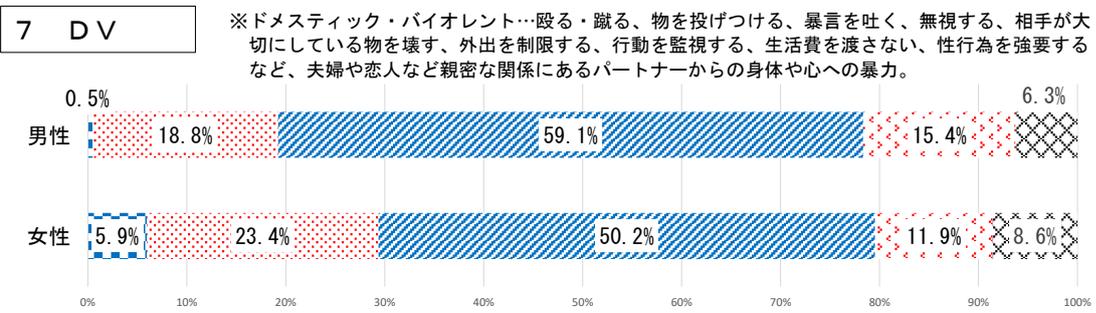
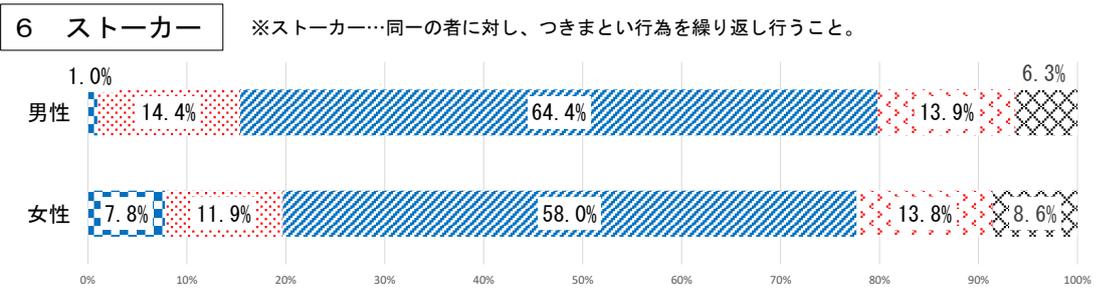
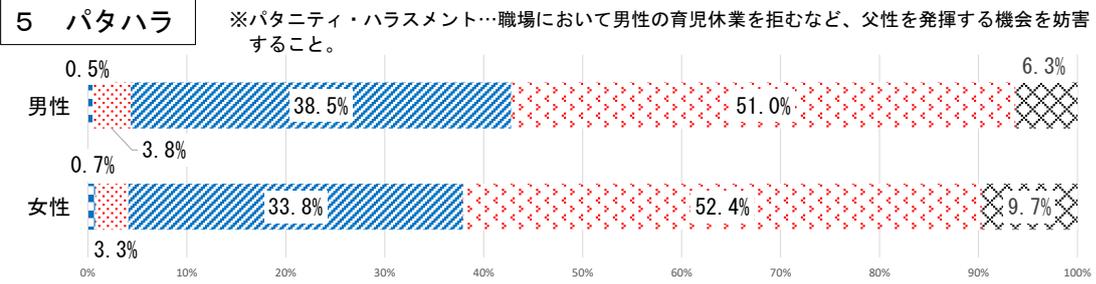
4 マタハラ

※マタニティ・ハラスメント…職場において妊娠や出産を理由に行われる嫌がらせ、退職の強要、雇い止めなど。



男性 (n=208)
女性 (n=269)

- 自分が受けた
- 身近で見聞きした
- ▨ マスコミ等で聞いたことがある
- 知らない
- ◇ 無回答



○女性は「セクハラ」「モラハラ」について「自分が受けた」と回答した割合が約6人に1人。
 ○「パワハラ」の「自分が受けた」と回答した割合は男女ともに10%を超え、男性の方が高い。
 ○「パタハラ」は「知らない」が男女ともに50%を超え、認知度が低い。
 ○いずれかの項目で「自分が受けた」と回答した人数は130人で、全体の約27%。

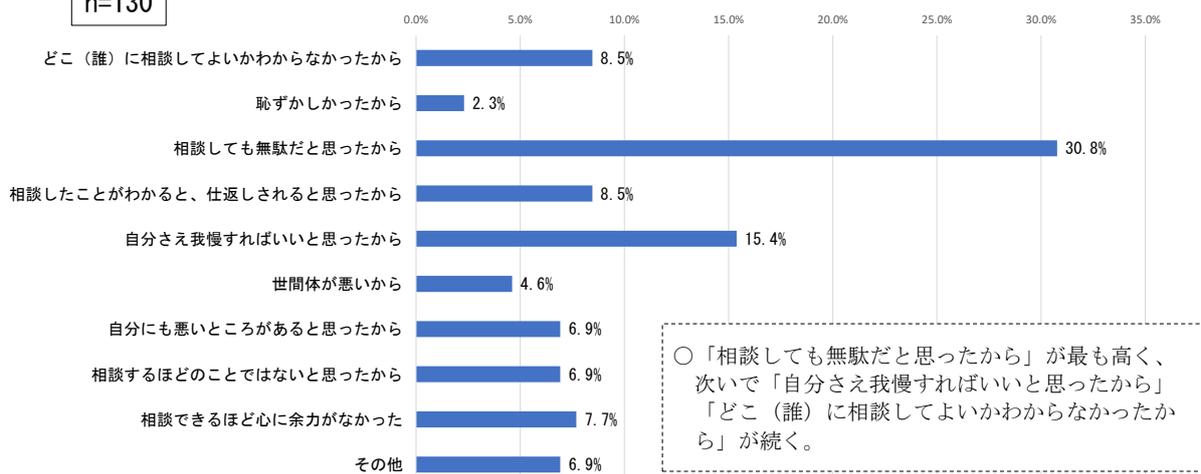
問24 問23で「自分が受けた」に○をつけたかたにお聞きします。
あなたはそのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

n=130

	回答	回答数	割合
1	相談した	71	54.6%
2	どこにも相談しなかった	55	42.3%
3	無回答	4	3.1%

問25 問24で「どこ（誰）にも相談しなかった」に○をつけた方にお聞きします。
どこ（誰）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

n=130



問26 あなたは「LGBT」という言葉の意味を知っていますか？

n=479

	回答	回答数	割合
1	知っている	325	67.8%
2	知らない	132	27.6%
3	自分が当てはまる	1	0.2%
4	無回答	21	4.4%

問27 問26で「知っている」又は「自分が当てはまる」に○をつけた方にお聞きします。あなたは、LGBTに対する周囲の理解が進んでいると思いますか？

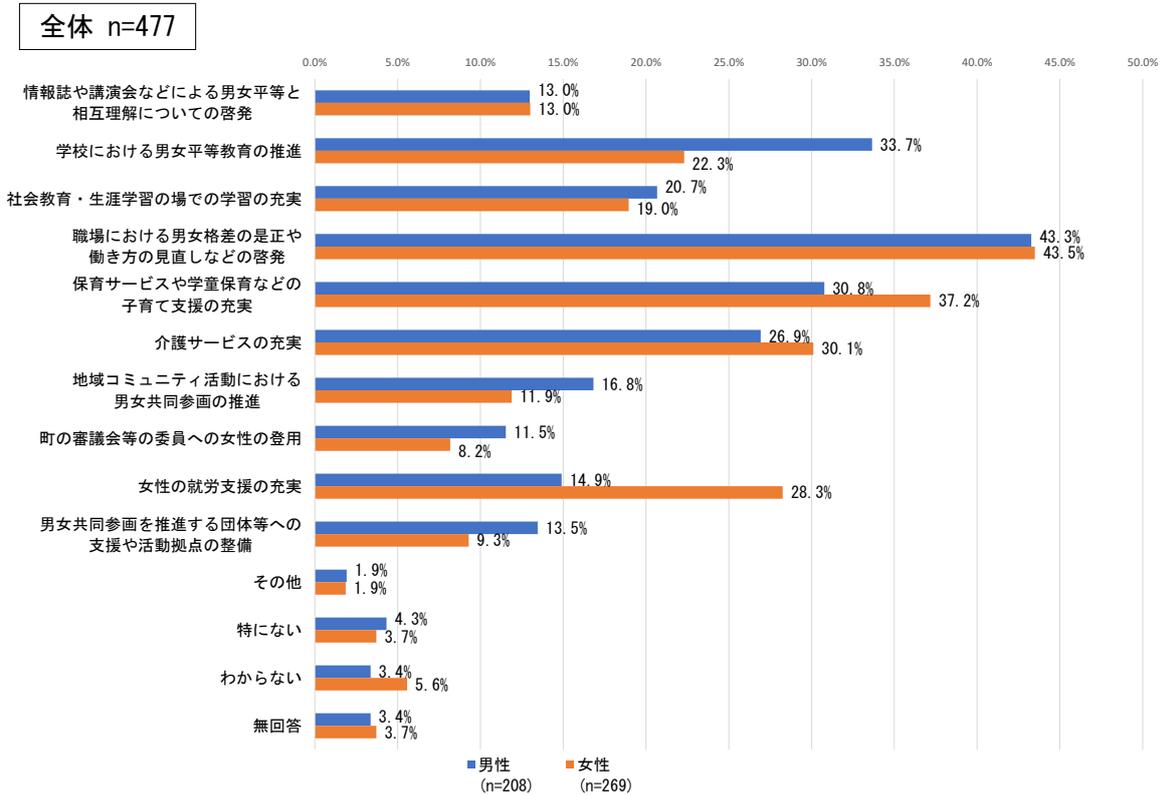
n=326

	回答	回答数	割合
1	理解が進んでいる	85	26.1%
2	理解が進んでいない	229	70.2%
3	無回答	12	3.7%

○LGBTについては「知っている」が67.8%を占めるが、周囲の理解については「理解が進んでいない」と回答した割合が7割を超える。

8. 男女共同参画社会について

問29 すべての人が性別にとらわれることなく、個性と能力が発揮できる「男女共同参画社会」を実現するために、南会津町の施策に望むことは何ですか？



○男女ともに「職場における男女格差の是正や働き方の見直しなどの啓発」が最も高い。次いで、男性は「学校における男女平等教育の推進」「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」、女性は「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」「介護サービスの充実」が続いている。